南さつま市

ふるさとの祭り・イベント

南さつま市には、伝統文化を守り続ける祭りや、雄大な自然風景を生かしたダイナミックなイベントなど、魅力あふれる行事がいっぱいです。ぜひ足をお運びください。

1月

上旬　長屋山拝賀登山
加世田 長屋山

中旬　鬼火焚き
金峰 白川地区

中旬　県下職域駅伝競走大会
加世田 加世田地区内

下旬　県高校新人駅伝競走大会
加世田 加世田地区内

2月

中旬　お伊勢講
大浦 大木場地区他　笠沙 片浦地区

中旬　野間神社例祭
笠沙 野間神社

中旬　南さつま海道 鑑真の道歩き
笠沙　大浦　坊津

3月

中旬　デュアスロンIN南さつま
加世田 県立吹上浜海浜公園

4月

下旬　お田植え踊り
金峰 尾下南方神社

下旬　きんぽう木花館春祭り
金峰 道の駅きんぽう木花館

5月

上旬　唐カラ船まつり
坊津 泊地区

上旬　るびなす観光農園収穫祭
加世田 るびなす観光農園

吹上浜砂の祭典
金峰 砂丘の杜きんぽう内 特設会場
5/2~5/6 ゴールデンステージ（砂像見学・イベント）
5/7~5/31 セカンドステージ（砂像見学のみ）

7月

下旬　竹田神社夏祭り
いろは歌ふれあい散策フェスタ
加世田 竹田神社周辺

8月

上旬　加世田ゆめぴか本町七夕まつり
加世田 ゆめぴか本町通り

中旬　金峰ふるさと夏まつり
金峰 金峰文化センター広場

中旬　大浦太鼓踊り
大浦 永田日新祠堂及び西福寺

中旬　久志太鼓踊り
坊津 久志地区

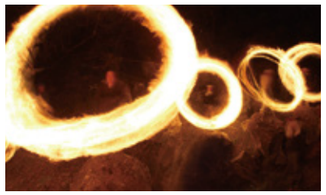
中旬　高橋十八度踊り
金峰 高橋地区

中旬　金峰2000年橋大坂納涼祭
金峰 2000年橋公園

中旬　日本の原風景「薩摩・坊津」岬まつり
坊津 坊地区

9月

中旬　るびなす観光農園入園式
加世田 るびなす観光農園



中旬　南さつま十五夜行事
笠沙　坊津　金峰　大浦　加世田　各地域

下旬　南さつまフェスタふるさと総踊り
加世田 ゆめぴか本町通り

下旬　ツール・ド・南さつま
加世田 南薩路

10月

上旬　マリンランド笠沙フェスタ
笠沙 笠沙公園グラウンド

中旬　金峰山大坂相撲大会
金峰 大坂地区公民館西側広場土俵

下旬　津貫豊祭太鼓踊り
加世田 天御中主神社

下旬　坊ほぜどん
坊津 坊地区

10月上旬~11月上旬　笠沙アートフェスティバル
笠沙 笠沙美術館

10月下旬~11月上旬　大浦まつり
大浦 丸山島公園周辺

11月

中旬　サイクルシティ南さつま
小学生さわやか一輪車大会
inかごしま
加世田 加世田運動公園

中旬　金峰ふるさと産業まつり
金峰 道の駅きんぽう木花館

12月

上旬　大木場山神祭
大浦 大木場地区 大山祇神社

上旬　南日本女子駅伝競走大会
加世田 加世田地区内

中旬　「鑑真大和上の遺徳を偲ぶ」集い
坊津 秋目地区

下旬　かせだ歳の市
加世田 ゆめぴか本町通り

島津日新公いろは歌

戦国時代に活躍した加世田城主・島津忠良公は、善政をひいた名君として知られています。中でも道徳・宗教を織り交ぜた和歌による「日新公いろは歌」は、広く受け継がれ、後の薩摩の精神教育の柱ともなりました。

い いにしへの道を聞きても唱へても
わが行ひにせずばかひなし

ろ 楼の上もはにふの小屋も住む人の
心にこそはたかきいやしき

は はかなくも明日の命をたのむかな
今日も今日もと学びをばせで

に 似たるこそ友としよけれ交らば
われにます人おとなしき人

ほ ほとけ神他にましまさず人よりも
心に恥ぢよ天地よく知る

へ 下手ぞとて我とゆるすな稽古だに
つもらばちりも山とことの葉

と 科ありて人を斬るとも軽くすな
いかす刀もただ一つなり

ち 知恵能は身につきぬれど荷にならず
人はおもんじはづるものなり

り 理も法も立たぬ世ぞとてひきやすき
心の駒の行くにまかすな

ぬ ぬす人はよそより入ると思ふかや
耳目の門に戸ざしよくせよ

る 流通すと貴人や君が物語り
はじめて聞ける顔もちぞよき

を 小車のわが悪業にひかれてや
つとむる道をうしと見るらん

わ 私を捨てて君にし向はねば
うらみも起り述懐もあり

か 学文はあしたの潮のひるまにも
なみのよるこそなお静かなれ

よ 善きあしき人の上にて身を磨け
友はかがみとなるものぞかし

た 種となる心の水にまかせずば
道より外に名も流れまじ

れ 礼するは人にするかは人をまた
さぐるは人をさぐるものかは

そ そしるにもふたつあるべし大方は
主人のためになるものと知れ

つ つらしとて恨みかへすな我れ人に
報ひ報ひてはてしなき世ぞ

ね ねがはずば隔てもあらじいつはりの
世にまことある伊勢の神垣

な 名を今に残しおきける人も人
心も心何かおとらん

ら 楽も苦も時すぎぬれば跡もなし
世に残る名をただ思ふべし

む 昔より道ならずしておごる身の
天のせめにしあはざるはなし

う 憂かりける今の身こそは先の世と
おもへばいまぞ後の世ならん

ゐ 亥にふして寅には起くとゆふ露の
身をいたづらにあらせじがため

の のがるまじ所をかねて思ひきれ
時に到りて涼しかるべし

お 思ほへず違ふものなり身の上の
欲をはなれて義を守れひと

く 苦しくとすぐ道を行け九曲折の
末は鞍馬のさかさまの世ぞ

や やはらぐと怒るをいはば弓と筆
鳥にふたつのつばさとを知れ

ま 万能も一心とあり事ふるに
身ばし頼むな思案堪忍

け 賢不肖もちひ捨つると言ふ人も
必ずならば殊勝なるべし

ふ 無勢とて敵をあなどることなかれ
多勢を見ても恐るべからず

こ 心こそ軍する身の命なれ
そろゆれば生き揃はねば死す

え 回向には我と人とを隔つなよ
看経はよししてもせずとも

て 敵となる人こそはわが師匠ぞと
おもひかへして身をもたしなめ

あ あきらけき目も呉竹のこの世より
迷はばいかに後のやみぢは

さ 酒も水流れも酒となるぞかし
ただ情あれ君がことの葉

き 聞くことも又見ることも心がら
皆まよひなりみな悟りなり

ゆ 弓を得て失ふことも大将の
心一つの手をばはなれず

め めぐりては我が身にこそは事へけれ
先祖のまつり忠孝の道

み 道にただ身をば捨てむと思ひとれ
かならず天のたすけあるべし

し 舌だにも歯のこはきをば知るものを
人は心のなからましやは

ゑ 酔へる世をさましもやらでさかづきに
無明の酒をかさぬるは憂し

ひ ひとり身をあはれと思へ物ごとに
民にはゆるすこころあるべし

も もろもろの国や所の政道は
人に先づよく教へ習はせ

せ 善に移り過れるをば改めよ
義不義は生れつかぬものなり

す 少しきを足れりとも知れ満ちぬれば
月もほどなき十六夜のそら

写真：南さつま青年会議所発行「島津中興の祖日新公いろはかるた」